

第2期第1回インクルーシブ教育（支援児包容教育）推進委員会 議事録

□開催日時：平成27年6月12日（金）14：30～17：30

□開催場所：駅北庁舎 4階 災害対策本部室

□出席者（敬称略）

・委員：水崎誠 宇野宏幸 中野正大 柴田勇夫 安藤克己
水野浩庫 小山正子 加知昌彦 保母朋子 中宿清美
大嶋美子 若林恭子

・事務局：渡辺教育長 丸山副教育長 永治教育次長 田中慎一郎 日比野至
市原浩代 安井宏治 大澤昌世 早瀬かおり 柳原伸哉

1 あいさつ

教育次長あいさつ

2 自己紹介

3 委員長、副委員長選出

4 検討内容

（1）インクルーシブ教育（支援児包容教育）推進たじみプランについて
事務局

（プランについて事務局より説明）

（2）進捗状況について

事務局

（プランの進捗状況について報告）

① キキョウスタッフ（支援員）の効果的な配置と研修

委員

新しく採用されたキキョウスタッフは経験がないため、何をしていたか分からないことから戸惑っている。そのため早期に研修をして欲しい。

事務局

新規採用をしたキキョウスタッフには、3月に研修会を実施し、事務手続きだけでなく仕事の内容についてご説明をしている。

副委員長

どれくらいのキキョウスタッフが継続して勤めているのか。

事務局

多くの方が継続をして努めている。中には5年目を迎えている人もいる。

委員

事業所は新しく採用された人は、一定の期間は経験のある人について研修をしている。大切なのは相手に対する言葉がけである。

副委員長

教員の採用試験が不合格になった人やボランティアで学校の経験のある人などを採用するとよいのではないか。

事務局

なかなか講師がいない状況であるため、資格をもっている人を採用するのはなかなか難しい。けれども、新規採用のときには、経験等も含めて検討をしている。

委員

キキョウスタッフを支えるシステムを構築する必要がある。

委員

ある学校は月曜日の朝に少しの時間を設けて打ち合わせをしている。また、ファイルをつくり、担任とキキョウスタッフとが連絡ができるようにしている。大切なのは対象の子どもに対しての評価基準を共通理解することである。

副委員長

キキョウスタッフからの情報はたいへん貴重な情報源となる。

委員長

キキョウスタッフに対して日常的にフォローするシステムを構築する必要がある。特別支援教育コーディネーター部会とのリンクをして、キキョウスタッフとの連携を図る。また、新規に採用した人に対しての研修を充実させる必要がある。

② 特別支援教育コーディネーター部会の専門性の向上

委員

特別支援教育コーディネーターはたいへん多くの仕事をしているが、それが校内で十分周知されているとは言い難いので、多くの先生方に知っていただく必要がある。

委員

特別支援教育コーディネーターは行った活動の割には手応えが得にくい所がある。そのため、こういった特別支援教育コーディネーター部会を、日々の自分の実践を振り返る場にする 것도大切である。

委員長

中学校区で交流会を計画している。そこで、子どものことだけでなく、自分の悩み事なども話をしていけるとよい。

副委員長

交流会でまとめたことはぜひ全体の場で共通理解を図るとよい。

委員

保護者への対応は確かに難しい面がある。十分に研修をするとよい。

委員

保護者はいつも他の子どもと比べてこれでよいのか悩んでいる。また、先生方は何でも相談してほしいと言ってくれるのであるが、こんなこと相談してよいのかと悩むこともあるのが保護者である。

委員長

保護者から連絡を待つのではなく、学校から積極的に保護者に連絡をしていることもある。特別支援教育コーディネーターの指名の在り方についても見直す必要がある。

③ 早期からの教育相談・支援の充実

委員長

駅北庁舎3階フロアのよさは、どこの窓口へ行っても相談の対応ができることである。つまり、相談窓口のワンストップ化である。行政が連携をして相談を進めてほしい。また、相談になかなか来られない人に対するアプローチも必要である。

事務局

現在、そのように対応をさせていただいている。相談の内容に応じて行政が連携をして複数で相談に対応することもある。

委員

駅北庁舎になってから、すべてのことが同じ場所で済むため、これまでなかなか手続きなどが進まない保護者が今年はいへんうまく進めることができている。

委員長

子育て相談会の場所を各地区へ広げてみてはどうか。それにより少しでも相談窓口へ来やすくなるのではないかと。

副委員長

相談窓口についての保護者への周知はどうなっているのか。

事務局

子育ていろは帳を保健センターでは全員配布をしている。また、いくつかの窓口にも置いてある。市の広報にも掲載して周知している。

副委員長

さらに相談窓口についてはアピールをしてほしい。

委員

全保育士が就学までの流れを知っていることはとても大切なのでこれからも周知の場を継続してほしい。

委員

発達支援センターでも就学についての説明会を実施してもらった。センターの職員と保護者が同時に聞くことで同じ情報を共有することができた。年度の当初に実施した時期もよかった。これからも継続してほしい。また、発達障がいの可能性のある子どもの保護者へのアプローチはやはり難しいのでたいへん気を配っている。

委員長

多治見市には5歳児健康診査はないため、幼稚園・保育園から小学校へ就学するときに全員に就学についての説明をする場があるとよい。

委員

保護者の意見をどのように聴取するかがとても大切である。いろいろな窓口で相談した内容がどのように共有され活かされるかを明確にする。

委員長

就学についての説明会について、出席者がまだ少ないように思うが、その理由はどう分析しているか。

事務局

園の行事と重なったり、保育園の保護者は仕事がなかなか休めなかったりで、欠席となっていた。そのため、来年度からは4回ある説明会のどこに出てもよいように声をかけていく。

副委員長

就学の説明会が拡大されたのはとてもよいことである。保護者の感想にあるように、就学先を考えるきっかけとなったとか、小学校見学等に足を運んでみようとするなど、たいへんよい傾向である。そうしたことが、就学に向けての意識づくりにつながっていく。

委員

就学先決定の仕組みが変更されたのはわかった。保護者の意見をどのように活用しているのかを今後も明確にしてほしい。また、チームで子どもを支えるという仕組みを構築してほしい。

委員

中学校区ごとの個別の教育支援計画作成会議において、保護者にも参加していただいているのだろうか。それぞれのライフステージを意識した支援を保護者と共に考えていけるとよい。

委員長

校内のケース検討会議においても、保護者の意見を十分に聴取して、それも含めて考えていくことを今後も大切にしてほしい。

委員

途中で転入した子どもへの健診への啓発はどうなっているのか。また、パンフレットなどを見てもなかなか理解ができない人へのアプローチはしているのか。

事務局

未受診の人には必ず電話連絡等を行い、健診を受けることを勧めている。また、理由があっても他の医療機関にかかっている場合に、健診を受けない例もあるため、さらに受診を勧めていきたい。

委員

早期からの支援を受けている子どもが多くいることがわかった。それが通級指導教室へもつながっているのがたいへんよい。

(3) 発達障がいの可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業について

事務局

(平成27年度の計画案について報告)

委員

書字障がいの子どものにはタブレット端末を使った支援をするように勧めた。ただし、まだ学校によってはなかなか活用まで進んでいないところもある。

事務局

そうした市内の学校の足並みをそろえるためにも、指定校が先進的に実践を行い、公表会を開催して、広く周知をしていこうと計画している。

委員

そうした困り感のある子どもについて、個別の教育支援計画がない場合もあるので、そうしたことを今後も進めてほしい。

委員

字を書くことに困り感をかかえている子どもが漢字のテストでなかなか丸をつけてもらえなかった。そこで保護者と学校が十分に相談をした上で、ある程度のところで丸をつけることの方がその子どもにとって学習意欲をなくさないという面でよい支援であると考えた。そのおかげで子どもが自信をなくさないで取り組むことができた。

副委員長

先生方の柔軟な対応が求められている。

委員長

これは場合によりけりである。しっかりとやりきらせることが大切なこともあるし、できる子どもにはやりきらせることも必要である。そのために、子どもの困り感を正しく分析し、多くの目で見てみんなで考える必要がある。また、こうしたところに保護者も入ってもらって一緒に考えてもらうことが大切である。

5 次回の予定

事務局

10月を予定している。

教育長

たいへん熱心な討議に感謝している。みなさんで議論されたプランを着実に実行していく。そのために、進捗状況についてご報告するので、今後ご意見をいただきたい。